

## 事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 30年3月31日

2次評価日（課長等） 30年3月31日

1 事業名	調査・活用事業	コード	111105
-------	---------	-----	--------

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	ブランド推進室	作成者	小林 隆
--------	----	-------	----	---------	-----	------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	文化・スポーツの振興	施 策	文化・芸術の振興
		予算科目	調査・活用事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）
事業の概要 （簡潔に）	製糸業の歴史の継承や製糸関連資料等の散逸を防ぐための資料収集及び調査、研究。 養蚕・製糸業を軸とした学習活動の実施。	
目的	対象者	市民及び来館者
	意 図	蚕糸関連資料の収集、調査、研究及び学習活動

5 事業の実施内容		*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・蚕糸関連資料の収集、整理</li> <li>・講演、授業等学習活動 86件 3,142名（出前講座・出前授業 26件1,306名） うち小中学校学習支援活動 56件 1,798名</li> <li>・フランス式繰糸機（復元機）の実演 12日24回</li> <li>・カイクふれあいデーの実施 10回</li> <li>・わくわくシルクサマーセミナーの実施 8/6 23名</li> </ul>		
前年度の課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理棟2階の環境整備を行い資料整理を進めた。</li> <li>・市外の出前講座については、基本的に来館することを条件に実施した。</li> </ul>	

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	講座・講演・授業（ワークショップ含む）の実施件数			単位	件
	実績値	130	103	86	
	*指標の説明	講座・講演・授業（ワークショップ含む）の実施日数			
② 成果指標（指標名）	講座・講演・授業（ワークショップ含む）の実施件数			単位	件
	目標値	150	130	130	
	実績値	130	103	86	
	達成度	86.7%	79.2%	66.2%	
	*指標の説明	講座・講演・授業（ワークショップ含む）の実施件数			
*目標値の設定方法の説明	過去3年間の最大値				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	271,619	315,013	322,102	0
経常経費	271,619	315,013	322,102	
臨時的経費	0	0	0	
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	2,800,000	2,800,000	2,800,000	0
正規職員の人数(人)	0.35	0.35	0.35	
③ 合計コスト(①+②)	3,071,619	3,115,013	3,122,102	0
前年度比		101.4%	100.2%	0.0%
財源	3,071,619	3,115,013	3,122,102	0
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	23,628	30,243	36,304	
前年度比		128.0%	120.0%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額 0 割合 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 #DIV/0!

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	0

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 83.5%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 66.2%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蚕具類、書籍等の資料の寄贈が増えており、資料整理が追いついていない状況である。</li> <li>・ 寄贈資料が増えていることから、収蔵庫の増設等の検討が必要となっている。</li> </ul>	
改善方法	<p>(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料整理については、短期間ではあるが作業員を雇用し対応</li> <li>・ 収蔵スペースを確保するための整理整頓の徹底及び博物館整備計画における収蔵庫の検討</li> </ul>	
	改善開始時期	平成30年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	30年度より他の事務事業と統合	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	A
-----------	-----------------	---	---